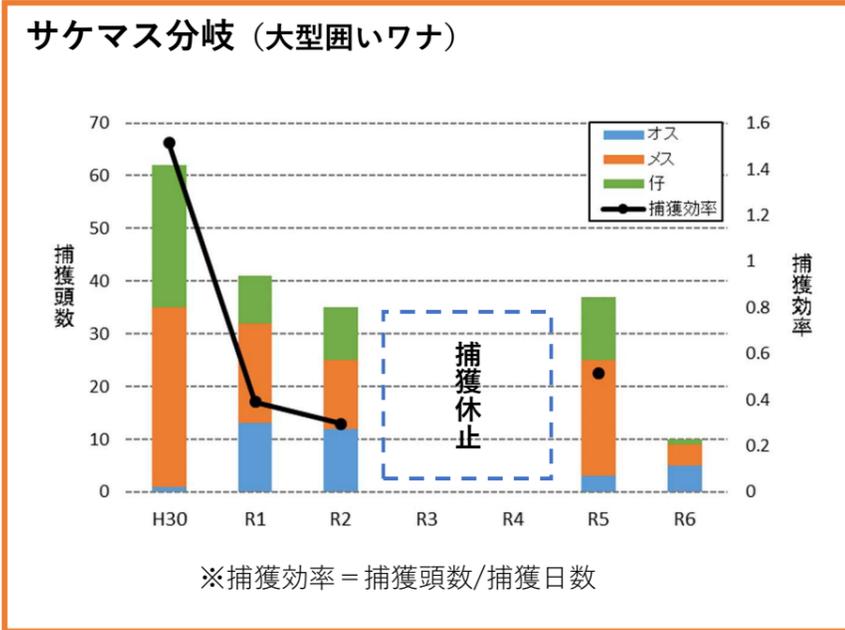
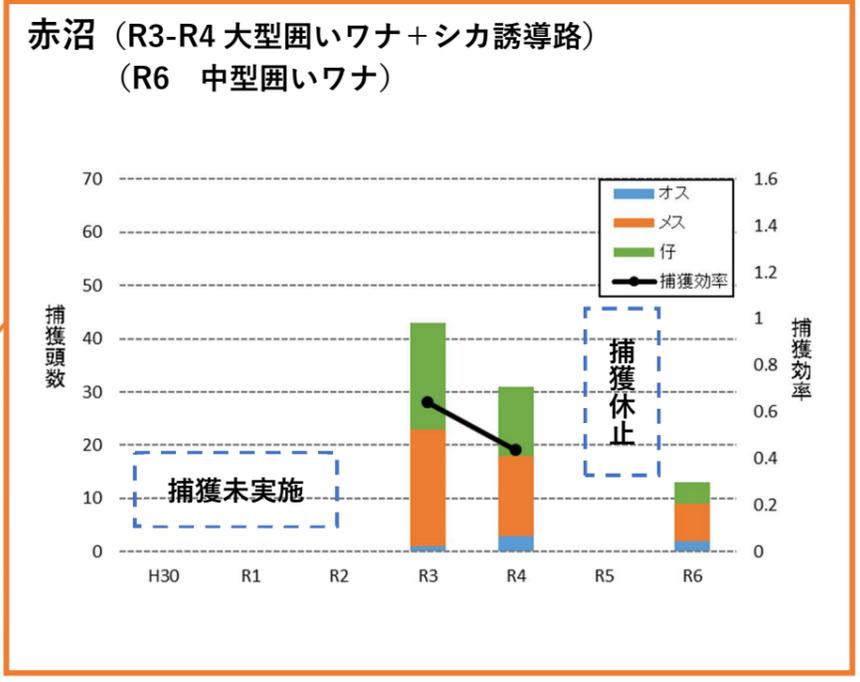
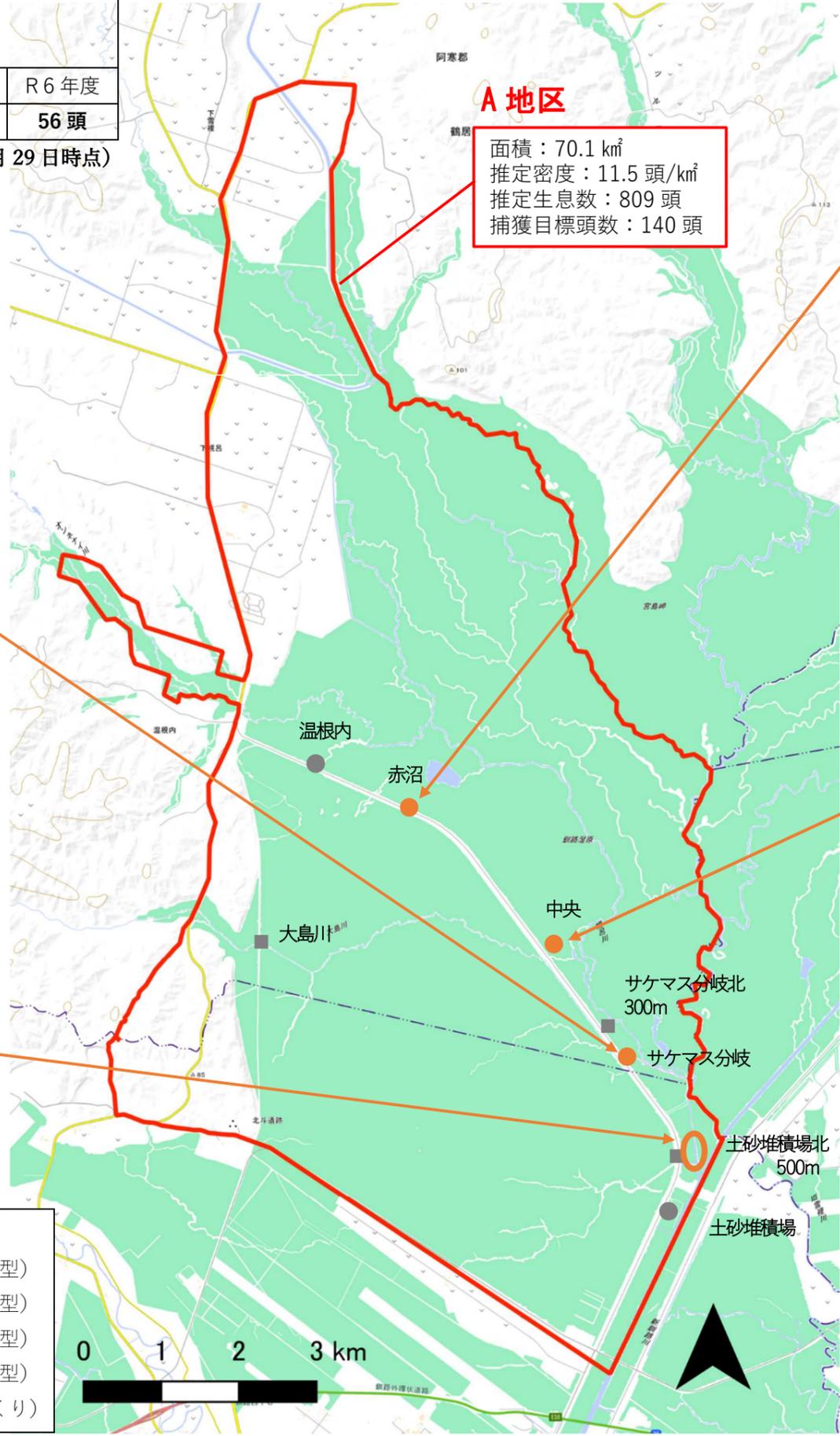


令和6年度エゾシカ捕獲対策の実施状況

1. A地区における捕獲結果 (第1期)				(第2期)		
H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
62頭	64頭	89頭	86頭	56頭	85頭	56頭

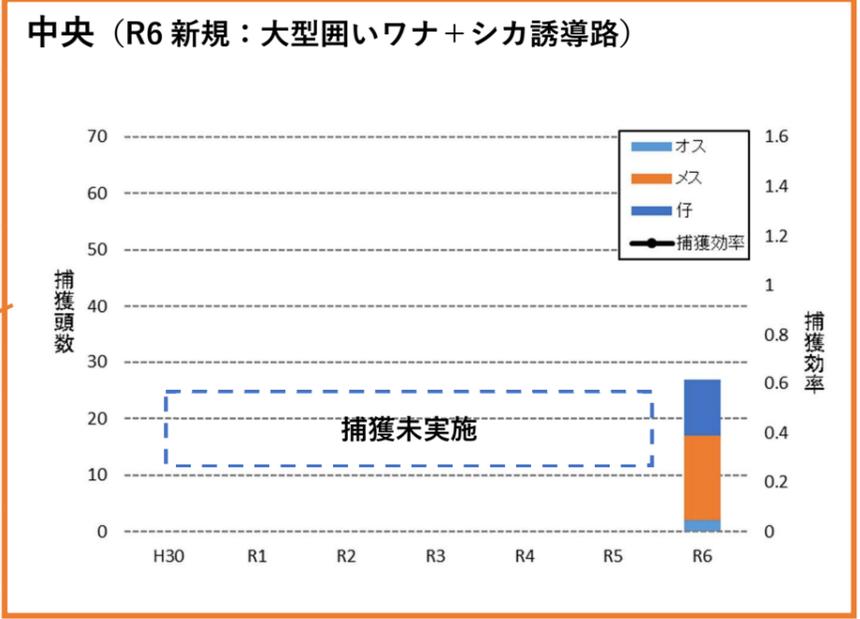
(*1月29日時点)



土砂堆積場北 500m (湿原内、くくりわな捕獲試験)

R6年度 計6頭捕獲
(内訳: オス2頭、メス1頭、仔3頭)

- 凡例
- R5 捕獲実施地点 (大型)
 - R5 捕獲休止地点 (大型)
 - R5 捕獲実施地点 (小型)
 - R5 捕獲休止地点 (小型)
 - R6 捕獲実施地点(くくり)



2. 各捕獲場所の現状

令和6年度は、保全価値の高い高層湿原周辺エリアでの対策を推進するため、右岸堤防北寄りの赤沼からさけます分岐にかけてワナを配置した。表1に1月29日時点の捕獲実施状況を示した。また、(1)～(4)に各ワナの捕獲状況の詳細、(5)に捕獲対策全体の検討課題を示した。

表1. 令和6年度捕獲実施状況一覧（令和7年1月29日時点）

捕獲地点	実施内容	捕獲期間	捕獲回数／ 予定回数	小計	オス	メス	仔	
							オス	メス
赤沼	中型囲いワナ (捕獲試験)	10月25日～2月末	3回／5回	13	2	7	2	2
中央	大型囲いワナ +誘導路	12月20日～2月末	2回／5回	27	2	15	5	5
さけます分岐	大型囲いワナ	12月20日～2月末	2回／5回	10	5	4	0	1
土砂堆積場 北500m	くくりわな (捕獲試験)	①1月14日～16日 ②1月28日～29日	5日／5日	6	2	1	3	0
捕獲数合計				56	11	27	10	8

(1) 赤沼（中型囲いワナによる捕獲試験）

<試験の目的>

- ・堤防堤体に杭等を打ちこまずにワナを設置し、一度に最大10頭程度のエゾシカを捕獲できるワナの開発
 - ・堤防周辺にエゾシカが最も集まる*秋期（10月、11月）の捕獲
- *資料3 令和6年度エゾシカの生息状況モニタリングの実施結果を参照

<試験の経過>

- ①堤防上で杭を打たない中型のワナを設計・設置（図1）
 - ・単管支柱とネット・幕を利用
 - ・堤防法面の芝を損傷しないように麻布、ゴザを使用
- ②秋期の誘引・捕獲
 - ・秋期に堤体に集まるエゾシカをビートパルプペレットで誘引・捕獲
- ③堤防上での捕獲試験
 - ・最大5頭（若いオス1頭メス3頭仔1頭）の群れを捕獲
 - ・6頭以上の捕獲、成獣オスを含めた群れの捕獲を試験予定
- ④餌場を占有する成獣のオスの排除
 - ・オスがワナの餌場を占有して、捕獲の支障になったことから麻酔を用いて排除
- ⑤堤防法面の養生
 - ・堤防法面の芝を痛めないようカバー（麻布、ゴザ）を設置したが、大雨で堤防の地面が柔らかくなり、大量のシカが歩くことで芝の一部が損傷した。
 - ワナを閉鎖し、捕獲を一時中断。降雪後にカバーを敷きなおして捕獲を再開
- ⑥ワナ躯体の強度
 - ・強風により躯体の一部が変形した。

・支えを追加するなど応急処置を施し、今のところ捕獲には影響していない。

<今後に向けた課題>

堤防上で囲いワナによる捕獲は、これまで大型囲いワナが設置できない場所や秋期に堤体集まるエゾシカの捕獲、また、湿原が凍結していない時期にも囲いワナを運用できることから、有用な手法として期待できる。

今後の運用に向けて、非積雪期の芝への影響低減を検討するとともに現況よりも強度のあるワナ躯体の設計の見直し等が望まれる。

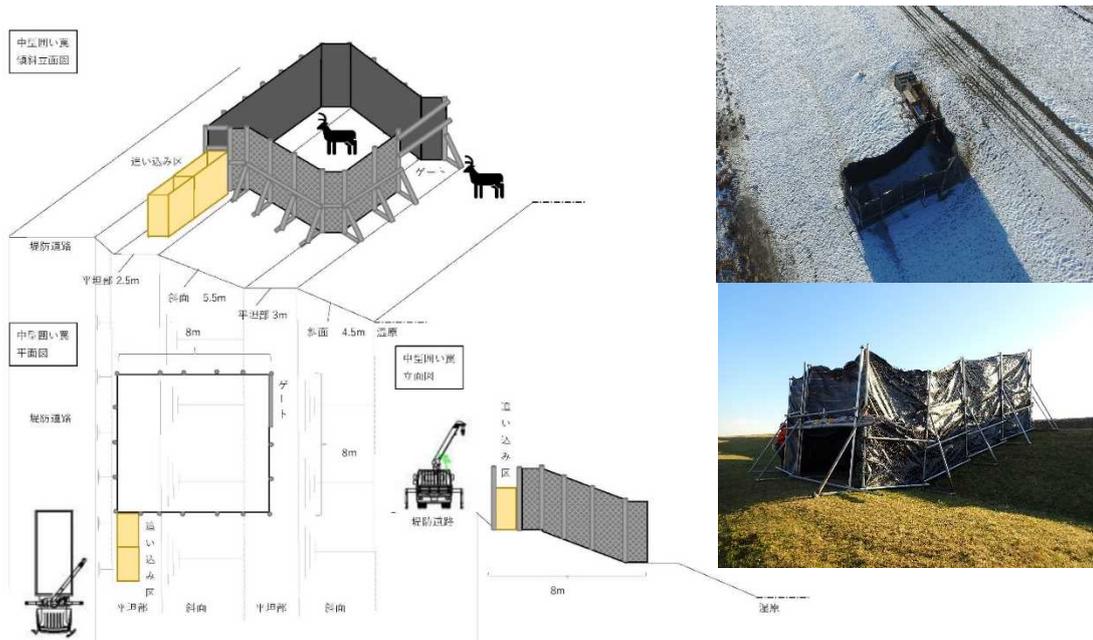


図1. 中型囲いワナのイメージ図と設置状況

<小型囲いワナとの比較>

令和5年度に試験を実施した小型囲いワナとの比較を表2に示した。小型囲いワナは設置面積が小さく設置場所の選択肢を増やせる。一方で、中型囲いワナの方が一度に多くのエゾシカを捕獲できる利点がある。

表2. 小型囲いワナと中型囲いワナの特性の比較

ワナの形状	特性
小型囲いワナ	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさ 4~5m 四方 ・幅 4m 程度の平坦な面があれば設置が可能 ・設置労力は 2 人で 3 日程度 (6 人日) ・捕獲頭数は最大で 4 頭程度 (通常 2-3 頭)
中型囲いワナ	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさ 約 8m 四方 ・生体搬出を行うため道路横に追い込み区を設置する平坦な面があることが設置条件 ・設置労力は 4 人で 3 日程度 (12 人日) ・捕獲頭数は最大メス 10 頭程度捕獲ができる想定 (試験中)

(2) 中央 (大型囲いワナ+シカ誘導路による捕獲)

<現状>

- ・令和6年度から新規実施
- ・大島川と幌呂川の合流地点に近く、川沿いを中心に多くのエゾシカが観察されるエリア
- ・湿原にワナを設置し、誘導路を用いてエゾシカを搬出
- ・誘引・捕獲の状況は今のところ順調

<課題と対策>

- ・高気温により、湿原の氷が解けてワナ内が水びたしになることがある

(3) サケマス分岐 (大型囲いワナによる捕獲)

<現状>

- ・平成30年度～令和2年度に大型囲いワナによる捕獲を実施。令和3～令和4年度捕獲休止し、令和5年度から大型囲いワナによる捕獲を再開

<課題と対策>

- ・一回目の捕獲実施後からワナ内にエゾシカの群れが入るようになるまで、中央に比べ時間がかかる傾向がある。小雪による影響や複数年にわたり捕獲を実施してきたことによるエゾシカの警戒心の上昇や、相対的なオスの増加等の可能性が考えられる。
- ・おとり個体による誘引を試行するため捕獲個体へのマーキングを実施(後述:トピック)
- ・今後ワナに入りにくいエゾシカを捕獲する工夫が課題



写真1. 設置した中央の大型囲いワナ



写真2. 設置したサケマス分岐の大型囲いワナ

トピック：馴化個体による誘引とマーキング

赤沼に設置しているワナに、2014～2016（平成 26～28）年度に環境研究総合推進費事業「釧路湿原にて超高密度化状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術（酪農大学、北海道立総合研究機構、釧路公立大学）」で GPS 首輪を装着したエゾシカが訪れている。

給餌作業およびワナによく馴化しており、他の個体がつられてワナ内に入る様子が確認されている（写真3）。

このような馴化個体をおとりとして利用する試みとして、今年度サケマス分岐において最初の捕獲個体に首輪によるマーキングを実施した（写真4）。放逐直後1度ワナ内の自動撮影カメラで撮影された後、確認ができていないが、引き続き観察を続ける予定である。



写真3. 前列中央が GPS 首輪装着個体



写真4. サケマス分岐で新たに首輪（標識）を装着した個体

（4）土砂堆積場北 500m（くくりわなによる捕獲試験）

大型囲いワナが設置できないエリアがあることや、大型囲いワナで捕獲を継続すると、数年後には捕獲効率が下がることが懸念される。令和5年度のエゾシカ対策検討会議において、囲いワナ以外での捕獲手法として、くくりわなによる捕獲の検討について意見が挙がったことから、令和6年度に右岸堤防周辺における試験を実施した。

<試験の目的>

- ・タンチョウ等希少動物に配慮したくくりワナの運用試験
- ・公園利用者への配慮や湿原における運用に対する検証と課題抽出

<試験方法>

- ・シカ道が濃くエゾシカの利用頻度が高い場所を選定
- ・公園利用者（釣り人、散策、観光利用客等）が歩かない場所を選定
- ・タンチョウの錯誤捕獲が発生しないよう、捕獲実施中は堤防上で待機し目視で監視
- ・捕獲は6時～16時までの間の7時間程度（計5日）とし、エゾシカが捕獲された場合は電気による止め刺しを実施してエゾシカを回収する
- ・捕獲個体は釧路広域連合清掃工場に搬入（1日3頭まで）

<試験の経過>

1月6日 捕獲場所選定、給餌の開始・カメラによるモニタリング

1月14日~16日 第1回目試験 計5頭捕獲（オス2頭、仔3頭）

1月28日~29日 第2回目試験 計1頭捕獲（メス1頭）

<今後に向けた課題>

- ・監視労力の軽減

現在の手法は多大な待機労力がかかり長期の捕獲が難しい。監視システムの改良や、タンチョウが設置エリアを利用しないような対策等の検討が必要

- ・捕獲個体の処理制限

捕獲後の個体の受け入れ上限が1日3頭であり、今後検討していく必要がある



写真3. 使用したくくりワナ



写真4. 堤防で待機中の様子



写真5. ウィンチを用いた捕獲個体の引き揚げ



写真6. 万が一タンチョウがかかった際タンチョウにかぶせるタモと麻布

(5) 捕獲対策全体の検討課題

- 周辺からの流入も含めた各地点の捕獲対象の個体数の把握と捕獲の効果検証

令和6年度は、赤沼の中型囲いワナ、中央の大型囲いワナ、サケマス分岐の大型囲いワナ、くくりわなのそれぞれが1 km以上離れないように配置した。令和7年度以降はその配置による効果の検証をする。

- 捕獲対象となるエゾシカと保全対象を明確にした捕獲戦略

令和6年度は、温根内、赤沼の高層湿原を利用するエゾシカを捕獲することを目的としてワナ配置を検討した。令和7年度以降、GPS首輪のデータやセンサデータ、航空カウント、シカ道等のデータを活用して、保全対象に影響を与えるエゾシカをより効果

的に捕獲するためのワナ配置や捕獲手法の検討が必要。

○捕獲効率低下後の捕獲戦略

小雪による影響や、サケマス分岐で見られた、捕獲継続による捕獲効率の低下は、今後も継続的に起こりえる問題で、今年度試行したおとり個体を含め、警戒心が高いエゾシカを効率的に捕獲するための、誘引や捕獲手法等の工夫が必要。